

能美市町会連合会とのタウンミーティング

日 時 令和6年9月25日（水）17:00～18:00

会 場 寺井地区公民館 大ホール

参加人数 61人

1) 開会

2) 町会連合会会長 挨拶

3) 市長 市政報告

○はじめに

・スライドの「インクルーシブ」というのは、誰一人取り残さない、仲間外れにしないという意味の言葉であり、能美市が目指す地域共生社会、健康な人も高齢者も障がいをお持ちの方も外国人も子どもも能美市に住む全ての皆さんが安心・安全、快適に暮らしていけるというのが「インクルーシブシティ」である。そして、来年2月1日に能美市誕生20周年を迎えるので、「能美市誕生20周年に向けて」というサブテーマをつけて、皆さんにご説明させていただく。

・昨年度の3月に「折り紙で作った電車の最多展示数」でギネス世界記録を更新した。これまでは佐賀県嬉野市が西九州新幹線開業時に作った1万9,000枚がギネス記録であった。その記録を北陸新幹線県内全線開業に合わせて更新しようと、新幹線開業日にかけて目標枚数を2万243枚と設定して挑戦したところ、なんと12万枚も折り紙が集まり、審査の結果、記録は8万2,034枚となった。この数値を覚えていただくために即興で「やったぜ、にっこり、の、み、し」という語呂合わせを考えた。現在、市役所に折り紙の展示をしているの

で、ぜひご覧いただきたい。

○令和6年能登半島地震

・市内でも様々な被害が出ており、特に大きな被害としては、緑が丘の市道ののり面崩落により陥没したことが挙げられる。この他、下水道マンホール周辺の隆起や陥没、美化センターののり面崩壊、福岡小学校のプール液状化、神社の鳥居・灯籠の倒壊等があり、産業面では九谷焼が破損した被害が大きかった。

・罹災証明書の申請が住家で約1,500件、住家以外の建物で約500件あった。ワンストップ窓口を設置し、市民の皆さんが1か所で様々な手続きを行え、相談もできるように体制を整えた。

・能登から避難された皆さんの対応も行っている。広域避難所や二次避難所、みなし住宅、友人や親戚のご自宅に身を寄せられている方々のご要望や困りごと等に対応できるよう、情報共有や課題解消のために専門家や各種団体と避難者受入ネットワーク会議を何回も開催した。あわせて、避難者生活サポート窓口の開設も行った。

・能登へ人材派遣や車両派遣、物資の搬送を行った。また、輪島塗や珠洲焼等の伝統工芸品だけでなく、能登のお米やお菓子などの特産品販売も行っている。私も何度か現地に赴き、首長さんとお話をしながら、困りごとや必要な対応等の情報交換も行ってきた。

・能登への応援として、九谷茶碗まつりでは「頑張ろう！いしかわの伝統工芸」というキャッチフレーズの下、珠洲焼や輪島塗の販売を行った。根上り七夕まつりでは、御陣乗太鼓をお呼びして、市内に避難されていた方々にも楽しんでいただいた。また、根上り七夕まつりの特別企画として、輪島市の白米千枚田で使用している「ペットボトル」約25,000本を借り受けて、根上総合文化会館の芝生広場で能登地区の復旧・復興を祈念したイルミネーションを行った。辰口まつりでは、バルーンランタンを上げて、皆さんと一緒に一日も早い復旧復興を願った。

・能美市では競歩の20キロ大会を、輪島市では35キロの大会を行っていたが、被災の影響で輪島市では行えないことから、3月に能美市で競歩の20キロと35キロ、両方を同日開催しようと準備を始めている。

・大雨特別警報も出て、輪島市では甚大な大雨の被害が出ている。これに対して、今能美市では緊急車両や給水車の派遣を行い、消防職員も今6～8名程、応援に行っている。今後は避難所の運営や水害による被害の罹災証明の発行等に市の職員を派遣する予定であ

る。今日お越しの町会長・町内会長さんにも、能登への支援に対しご尽力をいただいていたことに、改めて御礼を申し上げたい。あわせて、まだ約100名の方が能美市に避難されており、引き続き心に寄り添いながら対応していきたいと思っているので、ご協力をお願いしたい。

○令和6年度事業・施策／方針・目的

・事業・施策の方針に7本柱があり、毎年5つの方針・目的を設定し、そのすべてが移住定住の促進につながるようにしている。自治体の勢いや繁栄を表す数値はいろいろあるが、私は人口が重要だと思っている。人口増には自然増と社会増があり、今、日本のほとんどの自治体と同じように能美市も自然減となっている一方、能美市は社会増となっている。ただ、自然減を社会増で補えず、少し人口が減ってきている。いかに赤ちゃんを産みたいと思ってもらえるような環境を整備するか、健康寿命をどうやって延ばしていくかということがキーポイントになってきており、そのための取組を強化してきている。

○防災減災対策

・令和4年8月4日に大雨が降って、市内でも甚大な被害が発生した。それを受けて、手取川宮竹用水利地改良区と協定を結び、大雨警報が出たときに手取川から取水しないようにした。これによって、市内に降った雨を手取川又は梯川に流すことができ、内水被害に対して一定の効果が出るようになった。

・防災ガイドブックを各家庭に配布しているが、避難時にまず持っていくものはスマートフォンであり、ガイドブックのデジタル化を進めている。

・24時間365日、いつやってくるかわからない自然災害に、身体が不自由な人や高齢者等が取り残されずに避難できるように、まずは、被害の発生が多いエリアからお困りの方を対象に個別避難計画の作成を進めている。

・今回の能登半島地震を教訓に、簡易トイレ、使い捨ての哺乳瓶の備蓄数を増やした。

・地震への対応として、耐震改修やブロックの除去を助成する制度を設けている。

・令和4年8月の大雨災害で被害が大きかった西川、熊田川は手取川の下流部に注いでいるが、手取川の水が増えると、「バックウオーター現象」で水が西川、熊田川に流れ込むので、これを防ぐために、西川、熊田川に樋門を造る。また、しらさぎ団地周辺の西川の流域面積を倍にするような工事を始めている。

・鍋谷川、館谷川は梯川に注いでいるが、梯川の角度がすごく緩く、なかなか海に注がず、逆流することから、梯川の拡張が今行われている。また、2年前の大雨で一番被害が大きかった和気小学校周辺の川幅を広げる工事も始まっている。

・今年は手取川の洪水から、90年を迎える年であるので、先週、手取川水防フェスタを開催した。また、防災センターの展示を8月4日の大雨の教訓や、手取川での洪水での教訓を忘れずに、次世代に伝えていくというような展示内容に変える予定である。

・最新の救急車も導入した。能美市のレベルでは、救急車の配備は3台で良いことになっているが、重篤な患者を金沢大学附属病院や石川県立中央病院に運ぶとなると、その間の救急体制が不足がちになる恐れがあるので、最新鋭の救急車を入れて4台体制としている。

・市民の皆さんのご協力を得ながら、火災に対応するため、自衛消防団の活動を支援するような取組も始めており、消防団の控え所を造られる場合に、最大200万円補助するという制度を設けた。今年度、火釜町と福島町で新しく造られている。

・雪害への対策も行っており、火災や地震、津波、雨だけではなく、雪にもしっかりと対応していきたいと考えている。

・宮竹小学校エリアでゾーン30プラスを導入し、30キロ以上スピードが出ないように工夫を行った。交通量が多く、子どもたちの通行や人が多いエリアで、やさしい道路空間づくりを進めており、これまで福岡小学校エリアでも対策を行った。現在、辰口中央小学校の付近も整備を進めている。

・石川県警安全安心・広報インフルエンサーに任命をされ、県警がやっている取組をブログ等でPRする活動もしている。

・災害情報をいつでもどこでも受け取れるようLINEを導入した。災害情報だけではなく、能美市の様々な情報を簡単に取得することができるので、まだ登録されていない方はぜひお友達登録していただきたい。

○市民力・地域力の強化

・市民力・地域力が能美市の強みであると思っていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、人と人との交流が薄くなり、市民力・地域力が大分落ちてきた。特に壮年団や女性会等々の所属人数が大幅に減ってきており、女性会を解散する地区も出てきていると聞いている。市民力・地域力をどうやって高めていくかが課題である。

・地域力を強化するためにファンドを作り、支援をしている。例えば移送、子ども食堂、

外国人の居住に対するサポート等に取り組む団体に対して助成金を出している。

- ・能美市誕生20周年を迎えることから、ふるさと愛醸成のため、今年度、町会・町内会に一定額を補助する事業を行っている。大変好評をいただいております、いろいろなことに活用したという声を聞いている。

- ・能美市の歴史をしっかりと後世に伝えていくために、市史の編さんに取り組んでいる。

- ・講演会や講習会、イベント、文化祭、展示会の開催、施設の整備等を行いながら、ふるさと愛を醸成し、市民力・地域力を高めていこうと取り組んでいる。

- ・市民力・地域力の強化には、まずは健康であることが大切であり、サンテを改修、市立病院に健診センターを設置、人間ドック費用助成の増額等を行った。松任中央病院と広域の医療連携をし、医師の派遣や、様々な検査のサポートをしてもらっている。

- ・福祉の部門では、ふれあいプラザや生活支援ハウスの機能向上に取り組んでいる。地域共生交流館（旧亀齢荘）も古くなってきているので、改修に向けて進めている。障がいをお持ちの方も一緒に遊べる遊具を備えたインクルーシブパークの整備も行った。

- ・遠方から来られる方が利用しやすいように北陸新幹線小松駅や小松空港、インターチェンジに近い山口町に合葬墓を造った。

- ・能美電が開通して100年、廃線して45年、能美市誕生20周年の節目である2025年に合わせて、北陸鉄道能美線跡の健康ロードの整備を順次進めている。駅の看板等にQRコードを付け、周辺施設の紹介等も行えるよう考えている。

- ・昨年の2学期から中学校の給食費無償化を行い、3学期からは小学校も無償とした。年間で約2億6,000万円かかるが、物価高やエネルギー高で、子育て世代に厳しい状況であることから取り組んでいる。

- ・GIGAスクール構想で、Chromebookを使って授業を行っている。少し自慢させていただくと、子どもたちが家にChromebookを持ち帰っている比率が全国で3本の指に入るぐらい能美市のGIGAスクール構想は進んでいると、多くの専門家から評価をいただいている。

- ・コロナのときに図書館に行けなかったり、人が読んだ本への抵抗感があったりしたことや、忙しくてなかなか図書館に行けない方もいらっしゃることから、電子図書館をオープンした。今、デジタル図書の冊数を大幅に増やしている。

- ・先生の働き方改革や競技力の向上から、部活動の地域移行を進めている。今7つの競技を地域移行しており、順次広げていきたいと考えているので、町会長・町内会長の皆さん

にもご協力をお願いしたい。

- ・最近、学校で教室に入れない子どもが増えてきているので、しっかりと対応できるよう支援やふれあい教室を増やしている。

- ・北陸先端科学技術大学院大学（J A I S T）と沖縄科学技術大学院大学（O I S T）が学業連携を結んだことを機に、O I S Tがある恩納村と能美市で子どもたちの交流を行おうとパートナー事業提携を行った。中学1年生20人が恩納村を訪問し、大変良かったとの感想を聞いている。お互いの文化や歴史の違いを勉強してもらい、グローバルな視点を身に付けてほしい。

- ・大変企業誘致が好調であり、産業振興会議で有識者から人材確保等のアイデアをいただいている。また、企業ガイダンスで市内の企業に、高校生へのPRをしてもらっている。

- ・インターネットを使った市内企業の紹介や産業観光等で、市内企業の魅力を知ってもらい、この会社に勤めたい、この会社と取引をしたいと思ってもらえるようなきっかけづくりを行っている。

- ・能美市内の企業に勤め、能美市内のアパートに引っ越してきた人の家賃補助や、車の購入費用の補助、能美市の企業を訪問する際の交通費の一部補助を行っている。

- ・今、寺井高校の志望者数が定員を割り込んでおり、何とか志望者数を増やしたい思いから、今後、寺井高校へ市の給食センターから給食を提供できないか検討している。

○地域ブランドの確立

- ・幸福度や暮らしやすさ等を市民に調査したウェルビーイング指標によると、能美市の強みは「住宅環境」や「子育て」、「自然の恵み」であり、弱みは「買い物・飲食」「遊び・娯楽」「移動・交通」であった。しかし「遊び・娯楽」では、市内には、辰口丘陵公園やいしかわ動物園、アドベンチャーガーデン能美、手取フィッシュランド、陶芸村等があり、かなり遊ぶ場所は揃っているのではないかと思います。「買い物・飲食」についても、のみ商業協同組合の95店舗やスーパーがあり、また最近はドラッグストアが増えてきている。

- ・戦略的に企業誘致を行っており、ものづくり企業だけでなく、女性が働く場所も増えてきている。

- ・市税が大変好調で、一昨年に初めて90億円を超えた。

- ・能美根上駅では、待合室やワークスペースを造るとともに、電車接近音を「栄冠は君に輝く」に変更した。また、満車になることが多い東口駐車場の増設を計画しており、駐車

料金の支払いにキャッシュレス決済も対応できるようにする予定である。さらに、無人となった駅員室の活用も考えている。

- ・根上海岸沿いでは、インターチェンジやホテルができ、ハマナス群落の駐車場を整備した。パークゴルフ場にクラブハウスを整備し、インクルーシブ遊具の設置も行った。現在、翠ヶ丘いこいの広場の整備を検討しており、県サッカー・ラグビー場も活用していきたいと考えている。

- ・加賀海浜産業道路では、福島グランパークに新しく総合商業施設が進出することが決定した。また、道路沿いの沿線開発やフラワーセンターの跡地活用について、住民の皆さんと意見交換をしながら、希望に添った形で行っていききたいと考えている。

- ・東西連絡道路沿いでは、能美ふるさとミュージアムやふるさと歴史の広場、ウェルネスハウスSARAIを中心に、面として様々な活用を行っていききたいと考えている。次の土曜日に体験館がリニューアルオープンする。市内にある5つの古墳や寺井の三十一辻を、何か活用できないかと検討している。

- ・加賀産業開発道路沿いについては、フラワーハウスの跡地に道の駅の機能を持った施設を建てたいと計画している。サイエンスパークについては、県との歩調を合わせて、早く何か新しいものを造れるよう取り組んでいる。和気の岩のドッグランが狭いので、現在の小型犬と大型犬が遊べる場所を全て小型犬が遊ぶ場所に変え、大型犬が遊べる場所を新たに造る予定である。また、今、金沢大学用地の購入手続きを進めており、加賀産業開発道路と東西連絡道路をここでつなぎ、新しいまちをつくっていききたいと計画している。

- ・虚空蔵・東能七郷エリアには、数多くの史跡、名勝があるので、観光資源としてPRを行い、活性化させていきたいと考えている。バーベキューやヘラブナ釣りができ、フィールドアスレチックがあり、トレイルランニングやマウンテンバイクも楽しめる等、里山ではいろいろな体験ができる。マルシェやたんぼラグビーも行った。神奈川県の子どもたちが田植えを体験したり、大人がゆずの収穫を行ったりしていて、体験ができる場所として、里山の魅力を発信していけないかと検討している。

- ・企業誘致が好調で、住宅地の確保が必要となっており、宅地の造成や空き家の活用に取り組んでいる。

- ・これらの取組を皆さんに知っていただくため、シティプロモーションを行っている。例えば、移住アンバサダーさんに自分で撮影した能美市の風景を広く発信をしてもらったり、松井秀喜さんのアニメCMを作って放映したりしており、観光誘客やふるさと愛の

醸成につなげたいと考えている。

○ゼロカーボンシティ

- ・2013年度のCO₂の排出量を2030年度に半分にし、2050年度にはゼロにしようと取り組んでいる。

- ・農業を持続可能なものにするため、基盤整備やデジタルの技術の活用、集約化、6次産業推進を行い、様々な支援メニューを増やしている。

- ・公共交通を使うことでCO₂の削減につながるのを、のみバスにもぜひ乗ってほしい。

○インクルーシブシティ構想

- ・デジタル公民館に取り組んでおり、公民館で多世代間の交流や、オンライン診療、スマート物流をしようと考えている。慢性疾患をお持ちの方は月に1回、薬をもらうため、通院して診療を受ける必要があり、その負担軽減を図るため、公民館でオンライン診療が受けられるようにしようと検証を行っている。様々な課題があるが、まず栗生町をモデルケースとして検証を行い、課題をクリアした上で順次広げていこうと考えている。

- ・ライドシェアや地域通貨の取組を考えており、ライドシェアについては、国造地区から始めたいと思っている。PR方法や料金設定等の課題があることから、まずは国造地区の皆さんにライドシェアに関するアンケートを採り、要望をお聞きした上で、どのように進めていくか検討したいと思っている。

○行財政改革

- ・行財政改革として様々な取組を行っており、そのうちの一つにマイシティレポートがある。道路等に何か不都合がある場合、電話だとなかなか伝わらないということがあったが、スマートフォンで写真を撮って送ると、市役所にどこがどんな状態になっているかすぐ伝わり、早急な対応を行うことができる。

- ・市内の11の小中学校では、築50年以上が全体の35%を占めており、順次建て替える必要があるが、莫大な費用がかかることになる。そこで、まずは安全・安心な給食を食べてもらおうと、給食センターを新たに造った。これまで、辰口地区には給食センターがあったが、寺井地区と根上地区は自校式の給食であった。2学期から、寺井地区と根上地区も給食センターから給食を提供している。

- ・保育園の民営化に取り組んでいる。市内には15の公立の保育園があったが、市民からの幼児教育を受けたい等の要望を受けて、まず福島こども園を民営化し、今度は湯野と緑が丘の民営化を行っている。

○市民ファースト・現地現場主義

- ・視察を行うとともに、市民の皆さんとの対話も大切にし、タウンミーティングやカフェトークも行いながら、市政への反映を行っていきたいと考えている。
- ・能美市には新幹線が停まらないので、小松駅に「となりは能美市」という看板を出してPRしている。金沢へ行くホームのエスカレーターがない階段のところにあるので、ぜひご覧になっていただきたい。
- ・新幹線開業効果を市内の様々な分野で長期間得ることができるように、また、来年2月1日に訪れる能美市誕生20周年を皆さんと共にお祝いをし、25年、30年と繁栄できるように、いろいろ取り組んでいきたいと考えている。

3) 質疑応答、意見交換

質問・意見 1

【参加者】ふるさと愛醸成補助金について、来年もぜひ継続していただきたい。和光台では、祭りに使用した。例年になく、たくさんの方が祭りに来てくれて、大盛況に終わった。市が行っている様々な取組を知らない人がある。お世話係や町の中で音頭を取る人をたくさんつくれると、今までの取組や構想が生きるのではないかと思う。お世話係の育成のための画期的な工夫があれば良いと思う。

【井出市長】様々な取組を行っており、例えば移住アンバサダーさんには、インスタグラムで能美市の魅力を紹介してもらっている。今日お越しの町会長・町内会長さんも大切なその一人だと思っている。多くの皆さんからご意見をいただきながら、一緒にやっていきたい。

質問・意見 2

【参加者】和気で子どもたちにサッカーを教えている。1年に1回で良いので、和気F C、根上S C、湯野F Cに石川県サッカー・ラグビー競技場を使える日を割り当ててほしい。混んでいて、なかなか使えない状況である。

【井出市長】確認させていただく。

4) 閉会